

大字誌

細谷

ほそや



彼岸花の旅



(口絵写真18)

敗色が濃くなりつつあった太平洋戦争の末期に、横須賀のお医者さんの家族が、双葉町細谷のある民家に疎開してきました。

その折、熱さましの湿布に効能があるとされる「彼岸花の球根」を持参し、屋敷裏山に植えたそうです。その彼岸花は、群生して毎年の秋には、人目に触れる事は無く立派にいつぱい咲いていました。

平成十九年に私が地区行政区長になり、地域の環境美化に取り組みましたが、その一環として、彼岸花の大小球根を原発事故二年前の早春に地区内の町道約一五〇メートルの両脇へ独自に二日間にわたり屋敷裏から移植しました。

咲くのが楽しみでしたが、原発事故で、緊急避難となり、さらに細谷地区のほぼ全域が中間貯蔵施設エリアとして、国有化され二度と細谷に戻ることはありませんでした。避難二年目の秋に一時帰宅した細谷の方々から、「区長さん彼岸花がとてもきれいに咲いてるよ」との連絡を頂き、大変嬉しく、故郷への郷愁がより鮮明に脳裏を過りました。

平成二十九年栖葉（ならば）町で開催された、「ダイアログセミナー」に参加した事がきっかけとなり、川俣町山木屋の菅野源勝

さんと出会いました。山木屋でのセミナー開催時に菅野さんは、山木屋に四季折々の花を咲かせ人々を呼び込みたいと発表されました。その折私が中間貯蔵施設エリアの彼岸花が工事で埋められる運命なので山木屋への移植を菅野さんに提案したところ、即座に賛同を頂き、セミナーで報告しました。双葉町役場、環境省にその旨を説明、全面協力を得て、大小約三千株の山木屋への移植が実現、「彼岸花を愛でる会」開催に至りました。掘り起こしから、山木屋への移送はNHKテレビで放映されました。過酷な原発事故がもたらした出会いが、彼岸花を通じこのような形になり、事実は小説より奇なり、思いがけなく、とても有意義な交流が広がった事に、感無量です。

(大橋庸二)

細谷の彼岸花 年表

第二次世界大戦のころ	
横浜から細谷に疎開した医師が彼岸花を持参	
2007年	道路沿いに彼岸花を植える
2011年	福島第一原子力発電所事故、全町避難
2013年	彼岸花開花の便り届く
2015年	中間貯蔵施設建設の容認
2017年	ダイアログセミナー※山木屋で開催
2018年	1月 細谷から山木屋へ防災用品寄付
	4月 細谷から山木屋へ彼岸花移植
	9月 「彼岸花を愛でる会」開催
~~~~~	
2022年	10月 「第5回彼岸花を愛でる会」開催

## 大字誌 細谷

発行日 二〇二三年六月二十二日

編集・発行 産業技術総合研究所 地質調査総合センター

地圏資源環境研究部門

印刷所 株式会社CIA

福島県伊達市梁川町やながわ工業団地九十・一

TEL..〇二四・五七七・〇〇七五

本誌記事写真等の無断転載を禁じます。

出版番号

AIST231X0001